

結果の要約

1 職業

宮崎県の15歳以上就業者数(552,738人)を職業大分類別にみると、「生産工程・労務作業者」が149,406人(15歳以上就業者数の27.0%)と最も多く、次いで「事務従事者」が90,053人(同16.3%)、「専門的・技術的職業従事者」が72,240人(同13.1%)などとなっている。平成12年と比べると、「サービス職業従事者」が5,549人(10.7%)増、「保安職業従事者」が368人(3.8%)増となっている。一方、「管理的職業従事者」が2,199人(15.3%)減、「運輸・通信従事者」が1,757人(8.8%)減などとなっている。

職業4部門別割合は、「事務・技術・管理関係職業」が31.6%と最も高く、次いで「生産・運輸関係職業」が30.3%、「販売・サービス関係職業」が24.8%、「農林漁業関係職業」が12.4%となっている。平成12年と比べると、「販売・サービス関係職業」が1.2ポイント上昇しているのに対し、「生産・運輸関係職業」、「農林漁業関係職業」、「事務・技術・管理関係職業」がそれぞれ1.3ポイント、0.4ポイント、0.1ポイント低下している。

「事務・技術・管理関係職業」	= 「専門的・技術的職業従事者」 + 「管理的職業従事者」 + 「事務従事者」
「生産・運輸関係職業」	= 「運輸・通信従事者」 + 「生産工程・労務作業者」
「販売・サービス関係職業」	= 「販売従事者」 + 「サービス職業従事者」 + 「保安職業従事者」
「農林漁業関係職業」	= 「農林漁業作業者」

2 就業時間

15歳以上就業者の平均週間就業時間は42.1時間で、職業大分類別にみると、「運輸・通信従事者」が49.4時間と最も長く、次いで「保安職業従事者」が44.9時間、「販売従事者」が44.3時間などとなっている。平成12年と比べると、すべての職業大分類で減少となっている。特に、「サービス職業従事者」が2.0時間減、「販売従事者」が1.8時間減となっている。

3 夫婦の労働力状態、職業

夫婦の労働力状態をみると、夫と妻ともに就業者である夫婦が139,554組(夫婦数283,197組の49.3%)と最も多く、次いで夫が就業者で妻が就業者以外である夫婦が69,213組(同24.4%)などとなっている。また、夫と妻ともに就業者である夫婦の職業をみると、夫と妻ともに「農林漁業作業者」である夫婦が20,270組(夫と妻ともに就業者である夫婦数の14.5%)と最も多く、次いで夫と妻ともに「生産工程・労務作業者」である夫婦が14,876組(同10.7%)などとなっている。

4 従業・通学時の世帯の状況

従業・通学時の世帯の状況をみると、「通勤・通学者のみの世帯」は132,733世帯(住宅に住む一般世帯445,276世帯の29.8%)となっている。一方、通勤・通学者以外の世帯員がいる世帯は312,543世帯(同70.2%)で、このうち通勤・通学者以外の世帯員が65歳以上の「高齢者のみ」の世帯が121,732世帯(同27.3%)、「女性のみ」の世帯が53,839世帯(同12.1%)、「高齢者と女性のみ」の世帯が19,988世帯(同4.5%)となっている。

図1 宮崎県の職業（大分類）別就業者数（平成12年，17年）

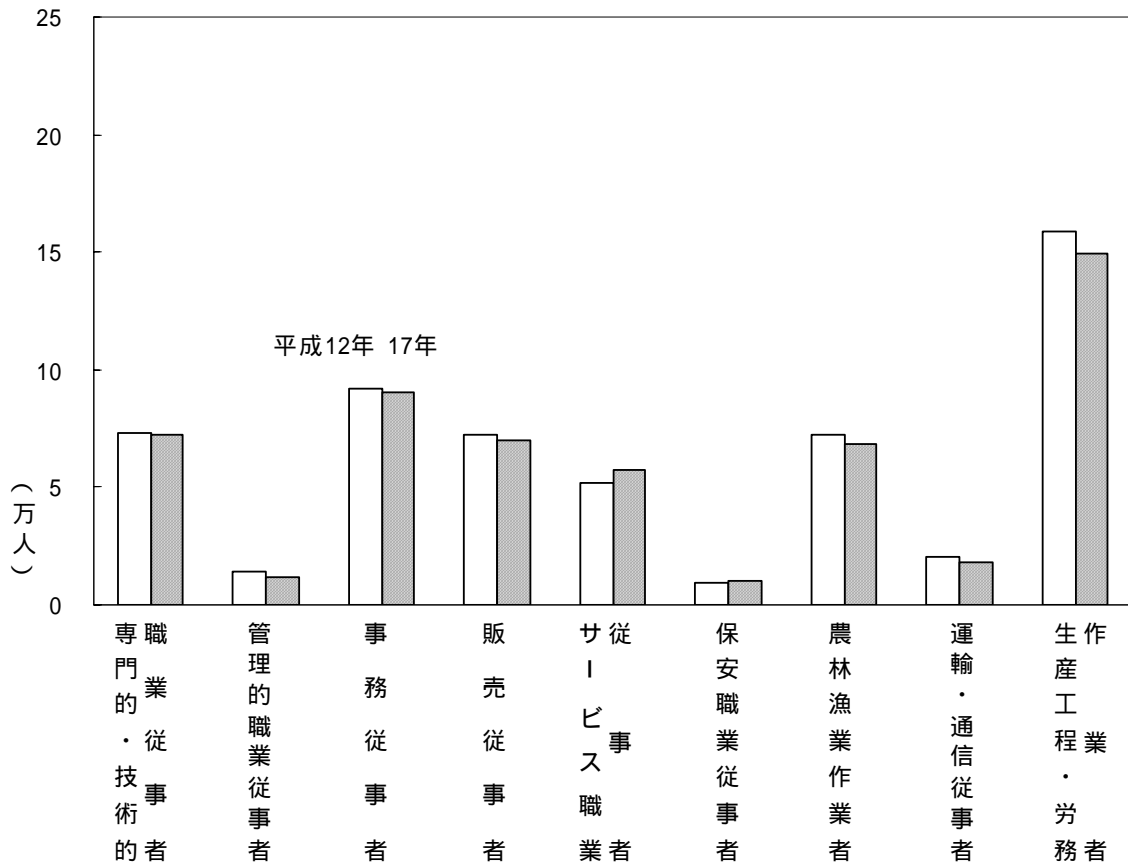


図2 宮崎県の職業（4部門）別割合の推移（昭和55年～平成17年）

